

小樽市人口対策会議（2023.2.9開催）【ご質問への回答】

No.	委員名	該当箇所	ご質問の概要	回答
1	佐藤委員（北海道新聞社）	資料1-2 4ページ	<p>(1) 1番目「合計特殊出生率」について、令和6年の目標値1.27というのは現時点で達成可能か。</p> <p>(2)（事前にメールで質問あり）出生率が伸びていかない原因をどうとらえているのか。</p>	<p>(1) 達成できるように、安心して産み育てる子育て環境の整備という形で事業を進めています。できるかできないかではなくて、その達成に向けて、子育て支援策の充実を図っていきたいと考えているところです（会議の中での事務局発言）。</p> <p>(2) 令和4年の国の人口動態調査では、出所数が戦後初の80万人割れをするなど、出生数の減少は全国的な傾向です。</p> <p>出生率が向上しない理由についても国の少子化社会対策大綱で主な要因とされている未婚化、晩婚化と有配偶出生率の低下の影響に加え、本市は高齢化率も高く、子供を産み育てる世代の人口が少ないことも大きな要因と考えています。（総務部企画政策室）</p>
2	佐藤委員（北海道新聞社）	資料1-2 5ページ	<p>(1) 4番目「冬期間、安全に移動できる道路が確保されていると感じている市民の割合」について、前回から10%近く落ちている。大雪だったからということもあると思うが、この数字を市としてはどう受け止めているか。一時的なものだと思っているか。</p> <p>(2)（事前にメールで質問あり）上記の数字の落ち込みについて、原因と対応をどう考えているか。</p>	<p>(1) 昨年とても豪雪で、除雪排雪が追いつかなかったという状況があり、それを受けての数字ではないかと認識しています。今年は昨年度の反省等々も踏まえて除雪排雪担当のほうで作業をしているものと思うので、今回はこれほどのK P I の落ち込みがないことを願いたいと考えます（会議の中での事務局発言）。</p> <p>(2) 記録的な大雪、暴風雨等により、除雪作業に遅れが生じたことや全道的に排雪用ダンプトラックの台数が不足し、排雪作業にも遅れが生じたことが原因と考えております。対応については、除雪事業者との意見交換を実施し、持続可能な除排雪体制の確保を図っております。（建設部）</p>
3	鈴木座長（小樽商科大学）		<p>・除雪費については、今年度の現況は昨年度と比べて増えているのか、減っているのか。</p>	<p>・当初予算額で比較した場合、5,400万円増えています。</p> <p>令和4年度（当初予算16億4,610万円） 令和3年度（当初予算15億9,210万円） （建設部）</p>
4	杉山委員（子育て支援サークルホワイトウィング）	資料1-2 4ページ	<p>・出生率は下がっているが、他の目標2番から6番に対する達成度は「①A」で、いずれも「現時点で目標を達成している」。これが出生率に結びついていない。目標の設定を変えるなど、そういう考え方はないのだろうか。</p>	<p>・この2番から6番は総合計画で定めた基準値で、ご指摘のとおり目標値が低いのではないかという議論があり、行政評価も踏まえて今後見直しを検討しております。（会議の中での事務局発言）</p>
5	高橋委員（中小企業家同友会）	資料1-2 4ページ	<p>・目標値の問題ではなく、そもそも項目が足りないのでは。例えば若い夫婦の所得がどうであるか等、そういう分析が必要ではないか。</p>	<p>・必ずしも、この指標にない事業はやらないということではなく、所得や働く場所の確保等も大事な要素とは考えております。また、鈴木座長から補足があったとおり、平成30年に小樽商科大学との共同研究を行った中で、所得に関する分析は一定の傾向を把握しております。（会議の中での事務局発言）</p>

小樽市人口対策会議（2023.2.9開催）【ご質問への回答】

No.	委員名	該当箇所	ご質問の概要	回答
6	阿部委員（政策金融公庫）	資料1-2 2ページ	・2番「関係機関と連携した支援による新規創業者数」はどうやって算出しているのか。	・令和3年度の実績については、金融機関から融資を受けて創業した件数36件と、融資を受けずに商工会議所のサポートと自己資金で創業した件数2件の、合計38件を計上しています。（総務部企画政策室）
7	佐藤委員（北海道新聞社）	資料2-1	・回答率31.0%は低いと思ったが、これは市が行うアンケートの中でも回答率が高いほうなのか。	・30%を超えるものは高い方で、20%程度というケースが多いのが実態です。（会議の中で事務局長発言）
8	吉田委員（市民公募）	資料2-1	・「理想とする子どもの人数」で2人と3人が圧倒的に多いが、実際に小樽市内でお子さんが2人または3人という家庭はどれくらいあるのか。	・子ども2人世帯：2,503世帯、子ども3人世帯：779世帯、合計：3,282世帯 【子育て世帯応援クーポン券事業の対象者（基準日R4.9.1に住民登録のあった18歳以下の子ども及び9/2～12/31に出生・転入した子ども）がいる世帯数】※世帯主が対象児童の祖父母や里親の世帯も含む（こども未来部）
9	佐藤委員（北海道新聞社）	資料2-3	（1）除排雪に対する不満がすごく強い。今力を入れていないとは言わないが、何か考えたほうがいいのではないかと。 （2）（事前にメールで質問あり）アンケートの個別回答も含め、強い不満が出ているのは除排雪。市の取組と今後の方針を教えてください。	（1）バス路線や主要な通学路及び観光に配慮した除排雪作業の実施を今後も継続して参ります。（建設部） （2）小樽市雪対策基本計画の具体的取り組みについて、着実に進めていきたいと考えております。（建設部）
10	佐藤委員（北海道新聞社）	資料2-3	（1）バスの減便について、市内のお店で飲食していた際「バスが少ないので家に帰るのが大変」という声を聞いた。すでにやってらっしゃるのかもしれないが、バス会社ときちんと話し合っていていかなければならないのでは。 （2）（事前にメールで質問あり）市内のバス路線の現状を市としてどうとらえていますか（十分とか、増便が必要など）。 （3）（事前にメールで質問あり）バス会社との協議の状況や、令和5年度の施策があれば教えてください。	（1）夜間を含めバスの運行便数については、市としても事業者と協議はしていますが、コロナ禍以降、特に夜間の利用者が減少しているため、利用実態に合わせて減便されております。今後、大幅に夜間の利用者が増加すれば増便が可能かもしれませんが、乗務員不足や労働時間改善の基準の改定などにより、今後の夜間の増便は難しい状況であると聞いております。（建設部） （2）コロナ禍により市内バス路線は利用者が大幅に減少し、収支状況が悪化したため、各路線とも減便が実施され、コロナ禍以前のような頻度でバスは運行されなくなりましたが、路線自体は維持されており、当該路線の利用者数によるが、便数も一定程度確保されていると認識しております。（建設部） （3）路線維持については、バス事業者と都度協議を行っていますが、バス路線の増便・維持は、利用者数の減少、乗務員不足や労働時間改善の基準の改定などにより簡単ではない現状にあります。そのため、令和5年度は市HPやSNSによる情報発信や利用促進動画の作成など、市民にバス利用を促す施策を予定しております。（建設部）

小樽市人口対策会議（2023.2.9開催）【ご質問への回答】

No.	委員名	該当箇所	ご質問の概要	回答
11	佐藤委員（北海道新聞社）		・（事前にメールで質問あり）オタモイ地区のようにスーパーがなくなった地域について、買い物難民対策として市はどのような施策をしているのか、例えば小売り業者との協議の状況など、教えてください。	・スーパーのなくなった地域への生協の移動販売ルートが新設されたことを把握しております。（福祉保険部）
12	杉山委員（子育て支援サークルホワイトウィング）	資料3	・移住者ミーティングの中で、実際に移住してきた方は小樽に何を一番求めて、何を魅力として来られたのか、参加者からはどんなお話があったのか。	・（吉田委員が参加者だったため、吉田委員に発言いただいた）小樽のどこが魅力か、ということに関しては、レトロでノスタルジックな町並みに魅力を感じて小樽に来た、移住を考えるようになった、という声が多かったと感じます。
13	阿部委員（政策金融公庫）		・移住したいんだけど、というモヤモヤした気持ちを持っている人たちに対して、小樽の移住をPRする取組などというのは何かやっているか。	・首都圏に北海道の自治体（一度に50～60自治体）が出展する「北海道移住フェア」に参加しており、現在、首都圏での移住関連フェアには年に2回出展しております。また、北海道移住交流促進協議会が運営する「北海道で暮らそう」というサイトに情報を掲載しております。（会議中での事務局発言）
14	小原委員（公共職業安定所）		・子育て支援の施策の中にシニアパワーを融合した取組のようなものを今までやられていたら、どんなものがあるか、教えていただきたい。（例：放課後児童クラブの送迎、留守番サービス）	・近年は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できておりませんが、地域の高齢者の方や多世代との交流を促進するために、老人クラブ等と一緒に保育所で夏祭りなどの季節的事業を開催しています。 ・ファミリーサポートセンター事業の提供会員や子育て支援ボランティアなどは、シニア世代（最高齢79歳）の方が多く、事業の運営に貢献していただいております。（こども未来部） ・地域住民が登下校時の児童の安全指導などを行う「学校支援ボランティア」や、地域住民に安全管理を依頼し、土曜日の体育館等で子どもの居場所づくりを行う「地域子ども教室」において、シニアの皆さんの協力をいただいております。（教育部）
15	杉山委員（子育て支援サークルホワイトウィング）		・昨年の書面開催時の資料に、少子化対策は他の道内の市町村と争っても頭打ち、消耗戦に陥ってしまう、それでひと旗プロジェクトに力を入れる、という書き方がされていて、それがすごく引っ掛かる。	・消耗戦という表現をしたのは、昨年の書面のやり取りの前段で、他の自治体のように補助金を出したらどうか、という意見があったためです。例えば南幌町は新築して移住した子育て世帯に最大200万円あげます、土地を半額にします、ということをやっていますが、小樽は毎年単純に転入だけで2,000件以上あります。その半分が子育て世帯と仮定して、例えば100万円ずつなんて配っていたら破産してしまいます。そういう意味で消耗戦と言う表現をさせていただきました。（会議中での事務局発言） ・子育て世帯に「移住してください」と言った時に、小樽は給料のいい仕事があります、という紹介がなかなかできないのですが、過去の歴史からいくと小樽には起業のチャンスはあります。なので、まずは起業を目指す移住の方を小樽に呼び込もう、ということで、ひと旗プロジェクトを始めました。（会議中での事務局発言）

小樽市人口対策会議（2023.2.9開催）【ご質問への回答】

No.	委員名	該当箇所	ご質問の概要	回答
16	杉山委員（子育て支援サークルホワイトウイング）		・小樽としては、どちらかというとして少子化対策よりも移住に舵を切る、というふうに考えた方がいいのでしょうか。市長は子育てに力を入れていくとおっしゃっているのを聞いた気がして、どちらなのかな、と。	・子育て施策をやることによって若い世代が増える、でも働く場所はどうなんだということで、仕事の場、雇用の場の創出も非常に重要と考えます。また、よそから人呼び込むために定住だけではなく移住の促進も必要ということで、仕事と子育て、移住というのを三本柱として人口対策、特に社会減対策としては大きく考えています。総てにバランスよくやっていかなければならないという思いです。（会議の中での事務局発言）
17	鈴木委員（市民公募）	資料1-2 4ページ	・「若い世代の妊娠・出産・子育ての希望をかなえる、未来の創り手を育む」の目標達成が5個あるということですが、実態と合っているか。誤解を生むのではないか。 ・先日市内の若いお母さんとお話しした際、ベビーベッドのあるトイレが少ない、と言っていた。ウイングベイと運河公園くらい。長崎屋にもない。そういう方から見ると、この資料は何だろうと思うのではないか。	・総合計画の中間見直しの中で検討させていただきます。（会議の中での事務局発言）
18	鈴木委員（市民公募）	資料1-2 4ページ	・基準値に問題があるのでは。「子育てしやすいと感じている市民の割合（18歳未満の子どもがいる世帯）」で22%、5人に1人がいいなと思えばよし、ということ。これは目標が低すぎる。（目標とするならば）50%ではないか。	・総合計画の中間見直しの中で検討させていただきます。（会議の中での事務局発言）
19	佐藤委員（北海道新聞社）	資料4-1、4-2	・国のデジタル田園都市国家構想総合戦略に向けて、小樽市の総合戦略が改定されるとしたら、今年度か来年度か、いつ頃のタイミングか。	・国の方向性がはっきりしていないため、時期については未定です。国が「地方自治体も改定を」という方向性をはっきりと出した際には、どの部分の改訂が必要なのかということを確認していきたいと考えます。（会議の中での事務局発言）
20	藤井委員（総連合町会）	資料5-1、5-2	・新光町の人口が増えている、というのは、札幌の星置にもう土地がなくなって、小樽側に人が押し寄せてきている、というふうに受け止めていいのか。	・札幌の地価が上昇しているため、それを受けて新光町や星野町の住宅用地に子育てで最多転入してきている状況にはあります。ただ、建築確認申請の件数ベースで見えていくと、新光町や星野町についてはこれ以上家が建つ場所が無くなってきていると分析しています。（会議の中での事務局発言）
21	鈴木座長（小樽商科大学）	資料5-1、5-2	・銭函にはスペースは残っているのか。	・銭函は建ったり無くなったりしている状況で、最近では賃貸住宅が建ち始めている状況です。1LDKで8万円～9万円、中には12万円という物件もあるようです。（会議の中での事務局発言）

小樽市人口対策会議（2023. 2. 9開催）【ご質問への回答】

No.	委員名	該当箇所	ご質問の概要	回答
22	佐藤委員（北海道新聞社）	資料3	<ul style="list-style-type: none"> ・（事前にメールで質問あり）小樽市HPの移住関連ページから「笑になるおたる」へのリンクが見つかりません。移住情報を知りたくて小樽市HPにアクセスした人が見つけにくいのは問題ではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市HPのトップページにリンクを作る方向で広報広聴課と協議して参ります。（総務部企画政策室）
23	佐藤委員（北海道新聞社）	資料3	<ul style="list-style-type: none"> ・（事前にメールで質問あり）「人材を求めている企業の紹介」をクリックしたら令和2年11月の古い情報が出てきたり、移住支援金の詳細を見ようとしたら次のページで「令和4年度募集停止」と出てきたり、小樽について調べようとする人の意欲を萎えさせない細かい配慮が必要だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人材を求めている企業の紹介」については、ご指摘のとおり、行政からの定期的な情報発信が難しかったことから、この度「おたる移住・起業サポートセンター」の開所により、求人情報も提供できる体制を整えました。今後はサポートセンターの情報とリンクした発信を実施して参ります。また、移住支援金の募集停止については、北海道の予算が枯渇したことによる措置であり、小樽市の意向で状況を変えられない、北海道全体の状況であることにご理解をお願いいたします。（総務部企画政策室）
24	佐藤委員（北海道新聞社）	資料3	<ul style="list-style-type: none"> ・（事前にメールで質問あり）ユーチューブに公式チャンネル「笑になるおたる」がありますが、そこへの誘導も見当たりません。チャンネル登録者数は11人（2月8日午前10時時点）、再生回数も各動画とも100回に満たない。せっかくHPを設けているのにもったいないです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のとおり、動画の再生回数等が少ない状況にありますが、資料3にもありますとおり、令和5年1月28日（土）に「移住体験ONLINEミーティング」を開催しまして、その動画を現在編集中です。編集後の動画を公開する際には「笑になるおたる」に動画専用ページを設置し、その中に関連動画を収録する予定です。現在対応中ですので、申し訳ありませんが今しばらくお待ちいただきたいと思います。（総務部企画政策室）